

2010 自己点検・評価結果に基づく教育研究活動等に関する調査結果

1. 概要

「玉川学園教育研究活動等点検調査委員会規程」に基づき、外部評価として『2010 自己点検・評価報告書』に対する評価・意見・助言を聴取すべく「玉川学園 K-16 教育研究活動等有識者会議」委員に対し調査を実施した。

回答数:4名 / 調査対象者数:4名(回答率:100%)

2. 実施時期

2011年7月11日～2012年1月23日

3. 実施方法

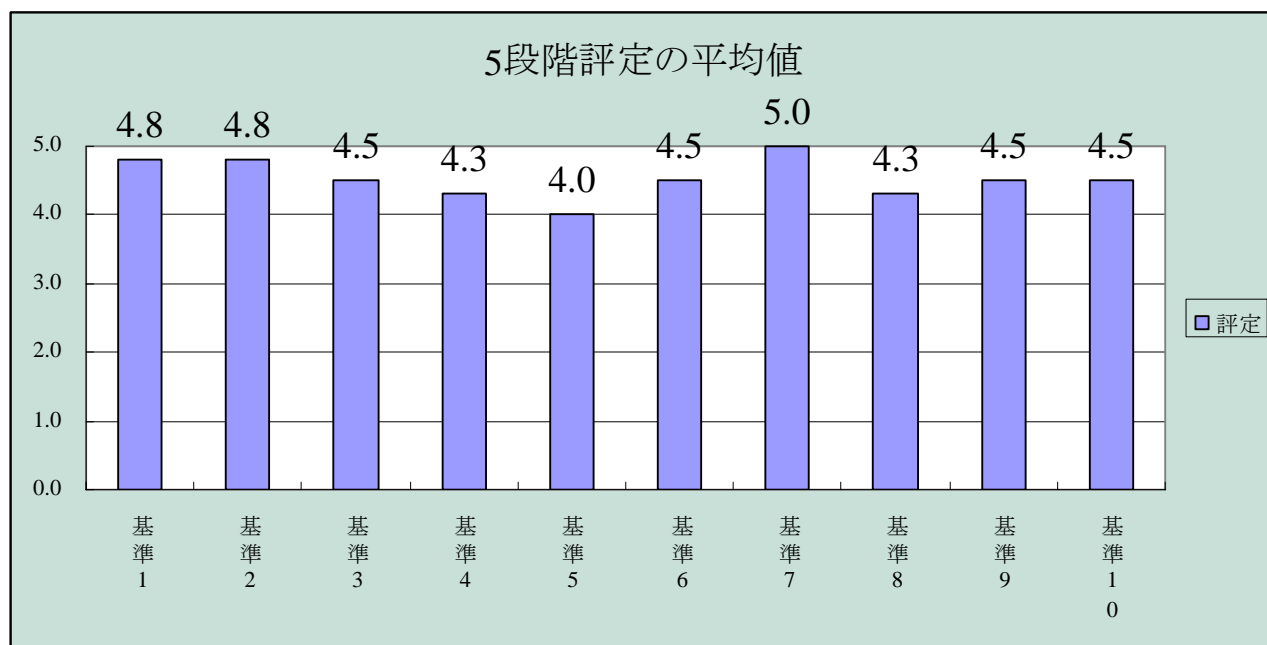
調査票(記述式)を送付し回答いただいた。

- 評価:主観的評価(5段階)
 - 5:特に優れていると思う
 - 4:優れていると思う
 - 3:普通(一般的)と思う
 - 2:劣っていると思う
 - 1:特に劣っていると思う
- 意見・助言
自由記述

4. 調査結果

■ 基準ごとの評価(5段階)

評価平均値を下記に示す。詳細は次ページ以降を参照。



基準 1 理念・目的

- (1)大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
- (2)大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか。
- (3)大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。

➤ 評価(5段階):平均 4.8

評価(段階)	5	4	3	2	1
回答者数(人)	3	1	0	0	0

<p>②特に評価できる事項</p>	<p>A-1: 全人教育という理念が徹底していること A-2: 個性尊重という理念が徹底していること A-3: 労作教育という理念が活かしていること B-1: 「人生の開拓者」を育てることを大学の理念・使命に掲げている。 B-2: 「12 の教育信条」掲げている。 B-3: TAMAGAWA VISION 2020 の策定に着手した。 D-1: 玉川のアイデンティティや基本理念を内外に明示している。 D-2: 学問分野ごとに玉川学園のアイデンティティを具体化し、内外に明示している。</p>
<p>理由 ※上記に対応して記入してください。</p>	<p>A-1: 建学の理念にブレがない A-2: 国際社会で通用する人材の基礎 A-3: 実践に重きをおいた教育の基礎 B-1: 目指す人間像が明確に描かれている。 B-2: 使命を実現するための実践の手立てや方向性を明示している。 B-3: 2020 年に向けてのビジョンの構築に取り組んでいる。 D-1: 全人教育論の意味するところをわかりやすく説明している。 D-2: 各学問分野の特性等に対応し、全人教育論を敷衍化している。</p>
<p>③改善を要すると思われる事項</p>	<p>A-1: 各学部の理念・目的が、全体の理念・目的をブレイクダウンしたうえで、個別の特性を活かしたものになっているかの点検 B-1: 大学全体の理念・使命を各学部・研究科において具体化する。 B-2: 大学の理念・使命を大学構成員に周知する。 B-3: 「全人教育論」の内容・方法の改善について。 C-1: 「12 信条」の説明文の改善 C-2: 2 点検・評価<6>教育学部 C-3: 「全人教育」を他の 11 項目と並列的に扱ってよいかは疑問。 D-1: 全人教育論の「現代性」がもっと強調されてよい。</p>
<p>理由 ※上記に対応して記入してください。</p>	<p>A-1: 文言にややブレがあるような印象を受けるため B-1: 各学部・研究科において受け止められ、具体化されることが大切。 B-2: 主体的に受け止められることによって確かなものとなる。 B-3: 21 世紀社会にみあう内容と方法の開発を期待したい。 C-1: ①「自然の尊重」は、震災教育、防災教育、原発教育などの視点を追加 ②「第二里行者と人生の開拓者」は、キャリア教育、アントレプレナー教育などの視点を追加 C-2: 効果が上がっている事項⇒「0～18 歳までの・・・精通する教育者・保育者を育成できている」という評価の根拠は何か。 C-3: 理念であって信条ではないような気もする。 D-1: 例えば、中教審答申の教育観・能力観と合致しているという指摘だけではなく、全人教育論が内包する教養重視や道徳重視といったことの現代的意義を明らかにし、学園内で共有しつつ外部に説明することも考えられる。</p>

④その他意見・助言	<p>委員 A 「12 信条」の 12 という数字に意味があると推察されるが、やや理解しにくい文言が散見される。「ミラーの法則」によれば、人間の認知限界が平均 7 であることから、もし可能であれば 7 以内に集約することが記憶の便から考慮するべきでは? また脳情報研究科が博士課程後期のみの募集であることは一般には知られていないのでは?</p> <p>委員 B 将来に向けて大学としてビジョンを提示することがこれまでもまして重要になってきている。その意味で、2020 年にむけて大学の方向性や在り方を求めていく姿勢、及び、中長期計画の策定に取り組んだことが評価できる。</p> <p>委員 C ・すべて「S」となっているが、基準がわかりにくい。 ・12 信条は、時代の求める不易を重視しつつも、必要不可欠となる新たな潮流もあるので、不断に見直しをかける。</p>
-----------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

基準 2 教育研究組織

(1)大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。

(2)教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。

➤ 評価(5段階):平均 4.8

評価(段階)	5	4	3	2	1
回答者数(人)	3	1	0	0	0

②特に評価できる事項	<p>A-1: COE プログラムとしての脳科学研究が全学の統合機能を果たしている B-1: 時代の課題に応じて各学部、各研究科を整備している。 B-2: 幼稚部から高等部を備えている。 B-3: 教学部門と支援部門が協調しながら大学運営にあたっている。 D-1: 基本的に、現代社会の状況や将来の動向を見据えた教育研究組織が構築されている。</p>
理由 ※上記に対応して記入してください。	<p>A-1: 対外的にも、玉川大学と脳科学という研究分野が連想を形成しつつあり、全人教育という理念にも合致している B-1: 総合大学としての実質を確保し、大学の強みを発揮している。 B-2: 教育活動と研究活動の交流を可能とする条件を整えている。 B-3: 両部門の連携は大学経営の要諦である。 D-1: どの学部の学科構成を見ても、玉川のアイデンティティを踏まえつつ、社会的必要性に対応した学科を設置している。</p>
③改善を要すると思われる事項	<p>A-1: 工学部マネジメントサイエンスと経営学部の関係が不明瞭 A-2: タテ系列の組織図は明瞭だが、ヨコの連携が見えてこない B-1: 学部間、研究科間の相互交流を図る。 B-2: 幼稚部・高等部と学部・研究科との相互交流を図る。 B-3: 学際的な研究を支える環境を整備する。 D-1: キャリア教育など学生に関わることも含め、様々な観点から国際的視野で高等教育の現況を分析し、ひいては玉川大学自身の将来像を研究する学内組織が必要と考える。</p>

<p>理由 ※上記に対応して記入してください。</p>	<p>A-1: 内部事情によるものと思われるが、外部からみるとマネジメント関連の学科が学部で分離しているのは理解しにくい A-2: 今後ますます学際間の連携が必要になってくるため B-1: 各学部・研究科間の交流による新しい知の創造を期待したい。 B-2: 教育活動と研究活動の還流を期待したい。 B-3: 学際的研究を支える研究センターの開設を期待したい。 D-1: これからの高等教育は、初等中等教育との連続性の観点と併せて、社会との連続性(初等中等教育との非連続性)の観点からそのあり方を研究することが重要であり、専門的知見をもつ組織が不可欠である。</p>
<p>④その他意見・助言</p>	<p><u>委員 B</u> 初等教育から高等教育まで各教育研究組織が一つのキャンパスに備わっている点を最大限に生かすことが大学経営の持ち味であり、強みととらえられる。その意味で、教育研究組織のタテ・ヨコをとらえ直し、互いの関係について緊密化を図ることが望まれる。</p> <p><u>委員 C</u> 特徴的(優先度の高い)な教育研究のより一層の充実・推進には、その内容に応じた予算措置が必要と思われる。</p>

基準 3 教員・教員組織

- (1)大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。
- (2)学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
- (3)教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
- (4)教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。

➤ 評価(5段階):平均 4.5

評価(段階)	5	4	3	2	1
回答者数(人)	2	2	0	0	0

<p>②特に評価できる事項</p>	<p>A-1: 脳情報研究科の採用方針が学際間連携モデルになっている A-2: 採用基準が明確化されている A-3: 専門職ファカルティデベロッパーを増やす努力 B-1: 学級担任制やゼミ担任制の維持をはかる体制を堅持している。 B-2: 全学的な玉川大学 FD 委員会を組織し定期的に活動している。 B-3: 「玉川学園コンプライアンス方針」を明示している。 C-1: 教員組織の整備 D-1: FDer の養成も含め FD が組織的・体系的に行われている。</p>
<p>理由 ※上記に対応して記入してください。</p>	<p>A-1: 大学としてチカラを入れていることが明確になっている A-2: 大学においては教育が何よりも重要であり、「入り口」段階での選別が担保される A-3: すでに在籍する教員の質の向上は喫緊の課題である B-1: 少人数制による指導の徹底への努力として評価できる。 B-2: 教員の資質向上を図る努力として評価できる。 B-3: 大学教員としての在り方などを大学として示している。 C-1: 設置教員数を十分に上回る教員数 D-1: FD が、個々の教員の実践力を高めることに焦点をあて、体系的に実施されている。</p>

<p>③改善を要すると思われる事項</p>	<p>A-1: 工学部と農学部の教員バランスの是正 B-1: 授業評価アンケートの実施、結果のフィードバックについて。 B-2: 教員の年齢構成について。 B-3: 大学運営上必要な SD について。 C-1: 教員の資質向上</p>
<p>理由 ※上記に対応して記入してください。</p>	<p>A-1: オンデマンドの観点からいえば、定員に対して充足率の低い分野は社会的ニーズも下がっていることを意味する。 B-1: 形式化、マンネリ化への配慮が常に欠かせない。 B-2: 年齢バランスへの配慮が常に求められる。 B-3: 教員と事務職員の連携をはかる FD・SD が望まれる。 C-1: 十分な教員数でのより質の高い効果的な教育活動を実践するための人間力・指導力の高い教員の採用と育成体制。</p>
<p>④その他意見・助言</p>	<p><u>委員 A</u> 外形基準による教員評価についてはさておき、実際にすぐれた教員について具体的に示されていないのでイメージをつかみにくい。できれば学部ごとのベスト・ティーチャーの授業を見学してみたいと思う。学部レベルでの教員バランス是正のためには、テニユア制の導入などで、教員の大学間流動化を図る必要もあるのではないかと？</p> <p><u>委員 B</u> 「大学運営上必要な SD 的な側面が有効に機能しているとはいえない状況にある」との指摘がある。この点への対応が望まれる。また、「FD と SD を合体化させた ED、PD の展開を考えたい。」との記述があり、この方向での推進を期待したい。</p> <p><u>委員 C</u> とにかくいい教員を。学部の特性に見合った教員を玉川らしい基準・視点で積極的に採用し、学園の活性化を図っていただきたい。大学(学校)のレベルは教員の資質・能力できまる。</p> <p><u>委員 D</u> 玉川大学の事務局スタッフは、他の大学と比べると突出して高い能力をもっているが、SD や PD の企画実施についても検討する必要がある。</p>

基準 4 教育内容・方法・成果

－教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針－

- (1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
- (2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
- (3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。
- (4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。

－教育課程・教育内容－

- (1)教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
- (2)教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。

－教育方法－

- (1)教育方法および学習指導は適切か。
- (2)シラバスに基づいて授業が展開されているか。
- (3)成績評価と単位認定は適切に行われているか。
- (4)教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。

－ 成果 －

- (1)教育目標に沿った成果が上がっているか。
- (2)学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか。

➤ 評価(5段階):平均 4.3

評価(段階)	5	4	3	2	1
回答者数(人)	1	3	0	0	0

<p>②特に評価できる事項</p>	<p>A-1: シラバスを全学共通のフォーマットで統一 A-2: GPA 基準の導入 A-3: 少人数クラスを前提とした双方向授業を実施 B-1: 全科目の授業シラバスに学士力の項目を記載している。 B-2: 修得主義型の教育課程を前向きに検討している。 B-3: 東京都小学校教員採用合格者数、私立大学第1位。 C-1: 学力不足の学生への能力検定・資格取得(教育学部等) C-2: 学生の実習の機会をとらえた学部教員の研修 D-1: 教育内容に関して、基本的には、教育目標に沿った形で、カリキュラム等が編成されており、学士力の内容も明確化されている。</p>
<p>理由 ※上記に対応して記入してください。</p>	<p>A-1: 「修得主義」の立場からみて学習計画をたてやすく、かつ授業評価も行いやすい A-2: 国際的な進学、就職環境への適応として A-3: 一方通行の授業では学習者の理解が進まないこの点は評価できる B-1: 学士力を明示し授業を通して実現を図る方針を明示している。 B-2: 次に向けたカリキュラムの開発をはかる姿勢が評価できる。 B-3: 大学が誇ってよい実績として評価できる。 C-1: 基礎学力の定着不足は教員としては致命的であり、本来大学のすべきことではないが、その取り組みは重要である。 C-2: :実習が現場任せになっている実態があることから、こうした姿勢が大学の評価を高めることに繋がる。 D-1: すべての学部で、ここまで体系的なカリキュラム編成はなかなか難しいにもかかわらず、きちんと行われている。</p>
<p>③改善を要すると思われる事項</p>	<p>A-1: インターンシップの効果測定と学内支援強化 B-1: 学生に教養を身につけさせる働きかけについて。 B-2: 教員を希望する学生への情報提供。 B-3: 学習のプロセスと成果を可視化する学習ポートフォリオの導入。 D-1: 学問の性格にもよるが、実践性が高い学問分野において、各授業で学ぶことの社会的な位置づけ・意味づけが、学生に十分理解されているとは思われない。 D-2: 一般的に、議論や討論の時間が少ないように思われる。</p>

<p>理由 ※上記に対応して記入してください。</p>	<p>A-1: 制度そのものは定着したので、インターシップ参加が確実に就職につながるよう、学内の支援体制をより強化する必要 B-1: コア科目群が果たすべき役割について吟味が必要である。 B-2: 教員採用の状況に関する情報提供を強化する。 B-3: その取り組みの成果を期待したい。 D-1: 学生たちに授業で学ぶことの「今いる位置」と「将来の方向(専門性の展望)」を示してあげれば、多くの学生は、意欲的に学ぶようになると思われる。 D-2: 議論や討論といった対話形式の授業を取り入れることで、キー・コンピテンシーの育成が初めて可能になる。</p>
<p>④その他意見・助言</p>	<p><u>委員 A</u> 定員充足率が低下している工学部などにおいては、アジアからの留学生枠も増やすことも必要では？ 製造業の中心はすでにアジアにシフトしつつあり、日本人としてエンジニアで行くためには英語能力アップは不可欠のスキル。</p> <p><u>委員 B</u> 教育界に多数の卒業生を輩出している実績は高く評価することができる。その一方、「成績の高得点者が、そのまま社会で生きていく上での高能力者とはならないのが現在の卒業生の状況である。」との記述をふまえるならば、社会人基礎力を育てるさらなる取り組みが期待される。</p> <p><u>委員 C</u> 今後の教育評価の観点として、現場(社会)に出てからの実態を把握するシステムをつくる必要があるであろう。</p> <p><u>委員 D</u> 教育には「不易」と「流行」があり、前者は、普遍的価値との連続性が重要になるが、後者では、社会との連続性が重要となり、特に高等教育段階では常に意識する必要がある。 「流行」に即した形で教育を展開するには、社会のニーズや社会的必要性の把握・導入が求められるが、例えば、アメリカの大学でみられるような「非常勤講師の活用」や「企業との人事交流」、「他機関との共同研究」など、そのための仕組みや仕掛けをもっと行う必要があると思われる。 玉川に全人教育論という確固とした「不易」の部分があることは素晴らしいことであり、高等教育においてもこれが活かされていることは言うまでもない。今後は、これに加え、玉川の同窓会などの協力も得て、「流行」の部分を充実させることが求められよう。</p>

基準 5 学生の受け入れ

- (1)学生の受け入れ方針を明示しているか。
- (2)学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
- (3)適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
- (4)学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

➤ 評価(5段階):平均 4.0

評価(段階)	5	4	3	2	1
回答者数(人)	1	2	1	0	0

<p>②特に評価できる事項</p>	<p>A-1: 初年次教育への取り組み A-2: 実習の重視 B-1: 全学的にみると、入学者を安定的に確保している。 B-2: 多様な入試が実施されている。 B-3: 学生募集に関する情報提供を積極的に行っている。 D-1: 学生の受け入れ方針を明示しており、公正かつ適切に学生募集・入学者選抜が行われている。</p>
<p>理由 ※上記に対応して記入してください。</p>	<p>A-1: 日本社会全体の喫緊の課題であるが、玉川はその先頭にたって推進している A-2: 就職を前提にした場合、なによりも実践性が求められる B-1: 大学が社会的に評価されていることを示す指標ととらえられる。 B-2: 多様な入試の実施を支える条件整備を評価したい。 B-3: 情報提供のきめ細かさは十分に評価できる。 D-1: 一部の私学でみられるような、人気取り施策として有名人を優先的に入学させるなどの措置が取られていない。</p>
<p>③改善を要すると思われる事項</p>	<p>A-1: 工学部の定員充足率の低さ A-2: 大学院の定員充足率の低さ A-3: 数学力アップ B-1: 入試運營業務の負担増について。 B-2: 受験関係者への選択方法多様化に関する周知徹底について。 B-3: 大学院の定員充足の低さ。 C-1: 学生比率が十分でない学部・学科の対応 D-1: 定員管理のあり方について検討する必要がある。</p>
<p>理由 ※上記に対応して記入してください。</p>	<p>A-1: 社会的ニーズが減少しつつある学問分野の統廃合によって対応すべきでは? A-2: 社会的ニーズについても検証が必要ではないか? A-3: 論理的思考能力の基礎である数学が受験科目にないことの弊害を真剣に考えるべき時期にきている B-1: 入試業務に関わる関係者の負担について配慮が欠かせない。 B-2: 払われる労力にどれほど見合うか、常なる検討が必要である。 B-3: 研究科の魅力を高める努力が期待される。 D-1: 学部・学科に応じて、定員の充足度等に差がある。</p>
<p>④その他意見・助言</p>	<p><u>委員 A</u> オープンキャンパス以外にも、学生ボランティア(とくに観光経営学科の学生)を活用したキャンパスツアーを随時実施すべき。キャンパスを知れば志望する学生も増えるはず。</p> <p><u>委員 B</u> どのような人材を入学させ、いかに育てていこうとしているかを社会に伝える努力がさらに期待される。その一方、多様な入試形態の実現に努力されていることを評価しつつ、そのために費やされている労力、リスク等へのバランスのとれた目配せが望まれる。</p> <p><u>委員 C</u> ・大学を選ぶと同時に「魅力ある教授」を選んで入学してくるようなモチベーションも重要である。そのような情報提供の充実を。 ・推薦入学者増にあつての学力維持・向上の強化に力を入れていただきたい。</p> <p><u>委員 D</u></p>

	大学のもつリソースを活用して、玉川のイメージアップを図り、玉川が社会に送り出す学生像をもっと社会にアピールすることが重要と考える。
--	-------------------------------------------------------------------

基準 6 学生支援

- (1) 学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう学生支援に関する方針を明確に定めているか。
- (2) 学生への修学支援は適切に行われているか
- (3) 学生の生活支援は適切に行われているか
- (4) 学生の進路支援は適切に行われているか。

➤ 評価(5段階): 平均 4.5

評価(段階)	5	4	3	2	1
回答者数(人)	2	2	0	0	0

②特に評価できる事項	A-1: 担任制度 A-2: 初年次教育 B-1: 1クラスの学生数を少人数とし、教員との融和を図っている。 B-2: キャリアセンターの設置と支援。 B-3: 給付型の学内奨学金制度の存在。 C-1: 進路選択に関わる指導・ガイダンスの実施
理由 ※上記に対応して記入してください。	A-1: 少人数教育によって、全人教育という理念を制度として担保している A-2: とくに喫緊の課題である B-1: 「師弟同行」の具体化する一つの条件整備ととらえられる。 B-2: キャリア支援に関する組織体制の整備ととらえられる。 B-3: 支給実績が高く維持されており評価できる。 C-1: 意図的・計画的・効果的に実施されている
③改善を要すると思われる事項	B-1: 学習支援について。 B-2: 教職センターの充実について。 B-3: 学生への修学支援、生活支援について。 C-1: 学習支援
理由 ※上記に対応して記入してください。	B-1: 全学的な体制を一層整えることが求められる。 B-2: 全学的な立場からの整備・充実も大切である。 B-3: それぞれの学生の事情に応じるきめ細かな支援が望まれる。 C-1: 計画に沿って学習支援センターを設置するとともに効果的な運営を期待する。
④その他意見・助言	<u>委員 A</u> 父兄会や OB・OG といった大学にとってきわめて重要なステークホルダーをアセットとしてさらに活用すべき。実社会のナマの声や体験を学生にフィードバックする仕組みをつくる。 <u>委員 B</u> 教職をめざす学生に対して主体的学習環境を整備するための努力が払われていることを評価しつつ、さらに整備・充実をはかる取り組みが望まれる。 <u>委員 C</u> ・学生支援体制がより多くの学生に周知され、どの程度必要に応じた支援がな

	<p>されたのか、学生の認知率を含めて学生側の評価から改善策を着実に進めることが大切であるとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学部と各センターとの相互連携が重要であり、カリキュラムと連動した効果的な修学支援・就職支援が望まれる。 ・教職センターは、教職に関する就職支援を目的としていることから、公立学校教職員採用率の一層の向上を目指して、教育学部との連携の改善に取り組むことが求められる。 <p><u>委員 D</u></p> <p>学生への支援体制はよく整備されていると思うが、就職難の時代が当分続くことから、さらなる対応を検討する必要がある。</p> <p>また、小中高を含む学園全体として、キャリア教育を具体化することも検討されてよい。</p>
--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

基準 7 教育研究等環境

- (1)教育研究等環境の整備に関する方針を明確に定めているか。
- (2)十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか。
- (3)図書館、学術情報サービスは十分に機能しているか。
- (4)教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
- (5)研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか。

➤ 評価(5段階):平均 5.0

評価(段階)	5	4	3	2	1
回答者数(人)	4	0	0	0	0

②特に評価できる事項	<p>A-1: ノートパソコン一人一台体制</p> <p>A-2: キャンパスが分散していないこと</p> <p>A-3: 工学関係の最新施設の建設</p> <p>B-1: 豊富な施設と緑豊かなキャンパスを維持している。</p> <p>B-2: マスタープランのもとに校舎の整備を着実に進めている。</p> <p>B-3: 震災対策備蓄計画を策定している。</p> <p>C-1: 環境整備に関する方針</p>
<p>理由</p> <p>※上記に対応して記入してください。</p>	<p>A-1: 情報化時代には絶対必要なスキルの習得につながる</p> <p>A-2: 学業以外のソーシャルの側面を重視した教育が可能</p> <p>A-3: 最先端の研究施設がキャンパス内にあることは、大学のイメージアップにもなる</p> <p>B-1: 緑豊かなキャンパスは大学の強みの一つにあげられる。</p> <p>B-2: 長期的視野のもとに整備を進めていることを評価したい。</p> <p>B-3: 災害に備え備蓄品を計画的に整備していることを評価したい。</p> <p>C-1: 大学と共に総合学園として、時代に合った知的環境の整備計画が適切に行われている。</p>
③改善を要すると思われる事項	<p>A-1: 電子図書館の充実</p> <p>B-1: 図書館の整備方針について。</p> <p>B-2: 教育博物館の整備について。</p> <p>B-3: キャンパスの各ゾーンの確保について。</p>

<p>理由 ※上記に対応して記入してください。</p>	<p>A-1: デジタルであれば、同時に貸し出しが可能であり、図書費の有効活用につながる B-1: 大学の理念・使命をふまえ将来の方向性の明示を望みたい。 B-2: その環境整備と積極的な活用が期待される。 B-3: 各学部・研究科のまとまりを重視する。</p>
<p>④その他意見・助言</p>	<p><u>委員 B</u> 図書館の整備・充実が大学の生命線といっても過言でない。大学の理念・使命の実現、将来への展望に立って、その着実な整備・充実を期待したい。</p> <p><u>委員 C</u> 施設・設備面での教育環境に関しては、高い完成度・充実度を感じる。計画に基づく整備を着実に進めるとともに、建設時期が古く現状に合った実習等が出来ない場合は、計画の見直しを図りできるだけ早い時期の改築・増築が望まれる。</p> <p><u>委員 D</u> 教育研究環境は、メディア環境を含めて申し分ない。ただ、教員がそれを十分に活用しきれていないように思われる。</p>

基準 8 社会連携・社会貢献

(1)社会との連携・協力に関する方針を定めているか。

(2)教育研究の成果を適切に社会に還元しているか

➤ 評価(5段階):平均 4.3

評価(段階)	5	4	3	2	1
回答者数(人)	1	3	0	0	0

<p>②特に評価できる事項</p>	<p>A-1: 社会貢献の観点から、専門研究者による各種セミナーやシンポジウムを一般向けに開催 B-1: 教育博物館の活用。 B-2: 大学教員の教育委員会・地方自治体への派遣。 B-3: コンプライアンス方針に「社会への貢献と責任」を明示。 D-1: 継続学習センターという専門の機関を設けて対応している。</p>
<p>理由 ※上記に対応して記入してください。</p>	<p>A-1: 地域貢献、社会貢献は広い意味で大学のブランド価値を高めることになる B-1: 施設の持ち味を生かした特色ある連携を期待したい。 B-2: 大学の人的資源を活用して、地域との関係づくりを進めている。 B-3: 社会との連携をめざす大学の積極的姿勢が明示されている。 D-1: きちんとした形で、継続的に、継続教育を展開することができる。</p>
<p>③改善を要すると思われる事項</p>	<p>B-1: 地域社会との連携・協力についての窓口の一本化について。 B-2: 地域への広報活動について。 B-3: 教育研究の成果について社会への還元について D-1: 社会人入学を強力に推進する必要がある。</p>

<p>理由 ※上記に対応して記入してください。</p>	<p>B-1: 関係づくりを進めるにあたって窓口の一本化が大切である。 B-2: 地域に対して積極的な情報発信が期待される。 B-3: 教育研究の成果の社会への積極的な還元が期待される。 D-1: 社会人学生が少なすぎる。社会人や留学生の存在によって、教育活動が活性化することはしばしばみられることである。</p>
<p>④その他意見・助言</p>	<p><u>委員 A</u> セミナーやイベントの告知については、もっと工夫する余地があるのでは？ また、地域の問題解決をフィールドワーク型授業として全員必修にすべきでは？</p> <p><u>委員 B</u> 退職期を迎える世代を含め、多くの人々に生涯学習の機会を提供することが、これからの大学の果たすべき大きな役割と考えられる。この観点から、講座の開講など様々な取り組みが期待される。</p> <p><u>委員 C</u> 社会・地域連携が求められる中、一方で大学としての真の社会貢献は、優れた人材の育成であり、彼らを社会に排出することであろう。社会・地域連携が教員や組織の負担となり、本来の教育時数を圧迫するような本末転倒な事態にならないような配慮が必要であると感じる。</p> <p><u>委員 D</u> アメリカの大学では、私学も含めて「エクステンションセンター」を設置している。これらのセンターは基本的に独立採算であり、今後は、戦略的にエクステンションを進めていくことが望まれる。</p>

基準 9 管理運営・財務

－ 管理運営 －

- (1)大学の理念・目的の実現に向けて、管理運営方針を明確に定めているか。
- (2)明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか。
- (3)大学業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。
- (4)事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか。

－ 財務 －

- (1)教育研究を安定して遂行するために必要かつ十分な財政基盤を確立しているか。
- (2)予算編成および予算執行は適切に行っているか。

➤ 評価(5段階):平均 4.5

評価(段階)	5	4	3	2	1
回答者数(人)	2	2	0	0	0

<p>②特に評価できる事項</p>	<p>A-1: 安定した財務基盤 A-2: 職員の能力アップのための研修実施 B-1: 財務状態、資産状況が良好であるということ。 B-2: 授業料収入への過度の依存を避けていること。 B-3: 研修センターを設け、人材の育成、成長支援を図っていること。 C-1: 中・長期的管理運営方針の大学構成員への周知 C-2: 意思決定プロセスの明確化、権限の明確化 D-1: 大学のミッションが明確化され、それがすべての組織・職員に浸透している。</p>
--------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>理由 ※上記に対応して記入してください。</p>	<p>A-1: 安心して教育研究に専念するためには、財務基盤が安定していることが必須である A-2: 大学経営の能力アップと教員の能力アップはクルマの両輪 B-1: 大学運営が安定的になされていることを示している。 B-2: 授業料以外の財源の確保に積極的に取り組んでいる。 B-3: 人材養成に積極的に取り組む大学の姿勢が示されている。 C-1: 4つの長期ビジョンの周知と理解は組織体としての一体感を高めるために極めて重要であり、なお一層の周知徹底を図る必要がある。 C-2: 組織にとって意志決定の根拠となる重要な諸規程であり、適切な運用が期待される。 D-1: 大学の教職員は玉川のミッションに共感・愛着をもって仕事をしており、極めて望ましい。</p>
<p>③改善を要すると思われる事項</p>	<p>A-1: 職員の能力のさらなる向上 A-2: 寄付金集め B-1: 教育研究費の8割を学生納付金に頼っている。 B-2: 受託研究費が減少傾向に。 B-3: 財務内容の公開について。 C-1: 自己申告書の効果について</p>
<p>理由 ※上記に対応して記入してください。</p>	<p>A-1: 限られた職員数で回していくためには、一人一人の能力を向上させることが重要 A-2: 施設面での投資のためには、さらなる財政基盤の強化が求められる B-1: 外部資金の活用が望まれる。 B-2: 様々な機関と大学との関係づくりも大切である。 B-3: 財務内容をわかりやすく公開することに備える必要がある。 C-1: 上司と部下のコミュニケーションを促す他に、職員の育成と業績評価、業績による昇給等の反映など、どのような仕組みにしていけるのか(あるいはなっているのか)。</p>
<p>④その他意見・助言</p>	<p><u>委員 A</u> 工学部や農学部、脳情報研究科などの分野での学内発ハイテクベンチャーなどへの投資や、観光経営学科実習の場としてのホテル建設などで収益源を増やすことも必要では?</p> <p><u>委員 B</u> 迅速に決定を下し、実行できる能力を有する人材が従来にも増して必要になっているとの記述がある。この指摘をふまえ、人材養成に努めることが望まれる。</p> <p><u>委員 C</u> 財政状況や試算については広く関係教職員に周知説明する必要がある。また、予算との関連から向こう10カ年の玉川の発展・充実を視野に入れた施策を説明し、大学全体の協働体制を確立していくことが重要と考える。</p>

基準 10 内部質保証

(1)大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。

(2)内部質保証に関するシステムを整備しているか。

(3)内部質保証システムを適切に機能させているか。

➤ 評価(5段階):平均 4.5

評価(段階)	5	4	3	2	1
回答者数(人)	2	2	0	0	0

<p>②特に評価できる事項</p>	<p>A-1: PDCA サイクルの徹底 A-2: コンプライアンス体制の確立 B-1: 自己点検・評価が組織的に丁寧に行われ、機能している。 B-2: 有識者会議の設置など学外者の意見を求めている。 B-3: 質保証に重点を置いた自己点検・評価活動を志向している。 C-1: 内部質保証に関するシステムの整備</p>
<p>理由 ※上記に対応して記入してください。</p>	<p>A-1: 企業経営では当たり前の PDCA サイクルが、学校法人でも定着すれば A-2: 企業経営以上に厳しいコンプライアンス意識をもつことは、社会からの信頼性向上につながる重要事項 B-1: 自己点検・評価活動の方針と手続きの明確化が図られている。 B-2: 内部質保証に有識者会議など生かす姿勢が評価できる。 B-3: 自己点検・評価活動のめざす目的や方向の明示と捉えられる。 C-1: 改革・改善のシステムを構築し、きめ細やかな自己点検を実施している姿勢は極めて高い。</p>
<p>③改善を要すると思われる事項</p>	<p>B-1: 自己点検・評価活動にともなう教職員への負荷。 B-2: 数値目標と自己点検・評価活動について。 B-3: PDCA サイクルを有効に効率的に動かそうとしている。</p>
<p>理由 ※上記に対応して記入してください。</p>	<p>B-1: 自己点検・評価活動にともなう諸活動の増加への配慮が必要。 B-2: 多くの理解を得ながら数値目標を用いることが大切である。 B-3: それが形式化しないように常に留意する必要がある。</p>
<p>④その他意見・助言</p>	<p><u>委員 A</u> この面に関しては、むしろ一般企業よりも先行しており、かつ徹底している面もあるので、今後も引き続き取り組んでいただくことを期待いたします。</p> <p><u>委員 B</u> 自己点検・評価が組織的に丁寧に行われ、機能していることを評価したい。その一方、教職員への負荷への配慮という観点から、その活動の改善をはかりつつ、大学改善に実質的に資する自己点検・評価の在り方を求めていくことが望まれる。</p> <p><u>委員 C</u> 各種データを収集・分析することは重要ではあるが、最後は玉川の理念・目的に照らし合わせて、評価・判断をしていただきたい。文科省や大学基準協会からの留意事項等にものみ振り回されないよう、本学の特色を見据えて、今後の方針・方向性を打ち出して頂くことを強く期待する。</p> <p><u>委員 D</u> 理事長をはじめとして関係者が内部質保証に留意し、つねにその向上を意識していることは、教職員や学生に、知らないうちに多大な影響を与えているものと思われる。</p>

以上